



みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日 9月23日手話言語の国際デー

演劇の世界との出会い

井崎 哲也氏の凱旋講演会(佐賀県出身)

日本文化である狂言。フランスの演劇祭で「手話狂言」を披露。日本手話で表現したためフランス人には通じない。興味を持って来てくれた観客は、「分からない」「つまらない」と大きなジェスチャーをし、席を途中で立っていった。(その時のジェスチャーを表現)最後まで残ったのは僅かだった。日本では、演劇を見に行くと、その内容が想像よりつまらなくても最後まで席を立たずに観る。ここでも日本との文化の違いを感じた。

二度目のフランス公演。前回は日本手話で痛い目にあったので、国際手話を必死で覚え演じた。前回のよう途中で離れる客はなく、大好評だった。

☞パントマイムと手話を融合、サインマイムの演者は世界で数人しかいない。全身を使って表現するだけでなく、手の形・動きだけで表現する場面も。

*実演「ハト」「スズメ」「ワシ」「ドア」聴者が開ける時、ろう者が開ける時

☞2020と手話語

・手話での教育

俳句→ろう者にとって読むだけでは分からない

手話で習うことにより奥深い意味がつかめる。

*例(実演)

「地吹雪と 別に星空 ありにけり」

「ふるいけや かわずとびこむ みずのおと」

☞ワークショップ・口形だけで伝えてみよう

(会場からのリクエスト)「コピー」「パパ」「ママ」

→「おとうさん」「おかあさん」



ろう者・手話関係者の約90名が参加。井崎氏は15歳の時に画家を目指して上京、東京教育大付属ろう学校(現在の筑波大付属聴覚特別支援学校)美術科を卒業。絵画の世界は厳しく、日展に何度も挑戦するも結果が出ない。人物画は「手」が難しい。手を見れば、その画家が上手いかどうか分かる。挫折した時、パントマイムの神様と言われる「マルセル・マルロー」の来日公演を見て、演劇の世界に引き込まれる。

パントマイムの基本は「風船」を表現すること、聞こえる人も聞こえない人も同じである。風船を取り出して、口にくわえ、息を吹き込み段々と膨らませていく。大きくなったら空気が抜けないように結んで、手で跳ねあげて遊ぶ。(実演)基本を身につけるだけでなく、そこに自分の色(表現)を加える。料理で例えると、自分なりの味付けをすること。(井崎流)

表現を学ぶためアメリカのろう者劇団へ。たった一人で渡米。言葉が分からない外国、不安もあるが学ぶためには一人で行ってよかった。もし二人～三人一緒に行っていると、言葉が分かることに甘えて日本人だけとしか話さなくなり、留学の意味がなくなってしまっていたら。劇団での公演が終了すれば契約終了。驚いた。アメリカの契約社会を思い知った。評価が良ければ次のオファーも多く金額も上がる、評価が悪くなければ仕事を失う。条件に見合う他の仕事があれば就職し、やりたい舞台に採用されればその仕事を辞めて演劇へ。舞台が終わるとまた就職もしくは次の舞台。契約社会という異文化を経験。舞台に立った時、「珍しい日本人が居る」ということで地元新聞に取り上げられる。大きく顔写真が掲載され、記事にはなんと…「女優」と紹介されていた。(3/16)

写真コンテスト (3月30日)

審査員特別賞

課題部門「秋」

「さざも紅葉狩り」
中島 和次さん



自由部門



「紅葉」
川原 武さん

センター長賞

課題部門「秋」

「ここに決めた。」
江頭 京子さん



「今日も素敵な1日になりますように・・・」
米倉 葵さん

自由部門



「七五三の日に～私も撮る!」
松本 香織さん



最多得票賞

シリーズ (17)

山口相談医のひと言コメント

ジャパントラック2015について(その1)

ここ数回、補聴器購入にあたっての話が続いていますが、その関連で、「ジャパントラック2015」から少し紹介いたします。これはヨーロッパやアメリカなどでも行われた大規模アンケート調査の名称で、日本版は2012年にも報告書が出ています。インターネットで検索していただくと、動画でも解説があります。

内容についてですが、一般の方々を対象にして、聞こえの不自由さや補聴器についてどのように考えているか、についてアンケート調査されています。総サンプル数は約1万4000名、そのうち難聴者が1306名でした。

まず補聴器購入に至った経路です。難聴を自覚した方が補聴器についてどのように行動をされ、補聴器購入に至ったのか、についてです。

- ◇「かかりつけ医師ないし耳鼻科医に相談した」か
- ◇医師から「医学的アドバイスをもらった」か
- ◇「販売店と相談した」か
- ◇最終的に「購入した」かどうか

という流れで見えてきますと、医師に相談した人は、実は40%でした。半分以上の60%の人は医師の診察や相談をしていません。相談した40%の方のうち、アドバイスをもらった方は32%（全体の13%）でした。販売店と相談した方は全体の15%でした。最終的に補聴器を購入されたのは全体の14%でした。アンケートに参加された難聴を自覚されている方1306名のうち、補聴器を装用されたのは183名という結果でした。

要約筆記者全国統一試験 2名合格



入部美雪さん 竹内百重さん

巡回聴こえの相談 in 諸富(3月13日)

耳鳴りや耳漏で悩んでいる、手帳申請や補聴器装用について教えて欲しいなど、6名の方が相談にいられました。

要約筆記者養成講座 5月18日(土)～10月12日(土)
会場：佐賀県聴覚障害者サポートセンター(申し込み締切日5月11日)

巡回聴こえの相談 (要予約)

4月24日(水)午前10時～午後3時 会場：久保田支所

5月22日(水)午前10時～午後3時

会場：太良町 総合福祉保健センター「しおさい館」

鳥栖シール 聴覚障害者雇用の実践6年間 ～はじめての採用から毎年継続採用～ 古川幸浩業務部副部長 (3月15日)



鳥栖シールでは2013年から聴覚障害者の採用に取り組まれ、現在では法定雇用数8名に対し、カウント数11名まで増加、奨励金をもらうまでに至っています。もともと佐賀市久保田町の平工業が同業の工場を再編し、鳥栖市とみやき町境の旧NOKの工場跡に合併操業を始めたが、人が集まらないことや障害者の雇用率アップを目指したのがきっかけ。

近隣の特別支援学校、福祉施設を回っているうちに、ろう学校からインターンシップを要請されたことから交流が始まりました。

実際ろう者のインターンシップの模様から視力が優れていること、健常者と同じスピードで仕事を覚えられる能力から最初の採用となりました。受け入れにあたって、コミュニケーションの方法としての手話、筆談ボードの利用、寮には火災報知器、蛍光ブザー、ドアロック発信器、バイブアラーム、安全センサー等を保護者とも話し合って整備しました。

その後、補聴器をつけた人も採用し、指示する時はマスクを外し、口許を見せるなど気を配っています。

最近では佐賀ろう学校の卒業生も少なくなってきたり、福岡ろう学校とも交流、今年2名採用しました。

また30km以上通勤者は入寮が条件のため、室料5千円程度、食堂の朝昼夕食定食は300円、看護師常駐とするなど、福利厚生の実施に努めています。

このようなことから、今年3月には、聴覚障害者6名、その他障害1名で実雇用率は3%まで上がっています。今後もうろう学校をはじめ、障害者を継続して採用していくことにしています。

センターの感想 古川副部長さんは、熱心に取り組まれています。職場でのトラブルも、センターからのアドバイスも受け入れながら職場ぐるみで解決されており、高く評価しています。

手話通訳講座修了式

(3月24日)

通訳 I



(5日間)要約修了式

(3月30日)

通訳 II

編集後記：今号は、「平成最後の」みみよりです。(M.J)

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12 (佐賀商工ビル4階)

TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705

メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp

ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

<閉館日>

毎週月曜日、祝日、年末年始